

第24回 モンゴル大草原の世界へ

和田 エンケザヤ

(福井県国際交流協会ボランティア登録会員)

平成25年6月1日



モンゴル大草原の世界へ

早川 皆さま、こんにちは。時間になりましたので、ただいまより第24回名田庄多聞の会を開催致します。今日はここに掲げてありますように、「モンゴル大草原の世界へ」と題して、和田エンケザヤさんからお話を伺います。あとでご本人から自己紹介があるかと思いますが、和田さんは日本にいられて14年になられる方です。それではエンケザヤさん、よろしくお願いします。

和田 皆さん、こんにちは。私は和田エンケザヤと申します。私は、永平寺町松岡に住んでいます。福井に住んで14年が経ちました。今朝は9時に松岡から出て来ました。同じ県内だけど、ここ名田庄まで、すごく遠く感じました。

日本に来たきっかけは、日本人と結婚して、福井に来ることになったからです。主人が、大学院の時にモンゴルのゴビ地域研究所へ研究に来ていて知り合ったのがきっかけです。私はちょうどその時、大学の日本語学科で日本語を勉強していたこともあり、話をするようになりました。でも、広島出身の日本語の先生が「さだまさし」の「関白宣言」という歌を教えてくださいました。「俺より先に寝てはいけない、俺より後に起きてはいけない」というような、歌の内容だったので、日本人男性と結婚すると苦労する、日本人とは結婚したくないと思っていたけど、愛の力が大きかったのでしょうか…縁あって日本に来ることになりました。

中学1年、小学2年、幼稚園年長の、女、女、男の3人の子どもがいま
す。最初は、モンゴルが恋しくてなかなか慣れなかったけど、家族や周
りの人に支えられ、何とかやってこられました。もう10年以上にもな
ります。

モンゴルと日本のつながり

皆さん、モンゴルについて何を知っていますか？

日本人と同じように、モンゴル人の赤ちゃんのお尻にも青いアザがあ
ります。日本語では「蒙古斑」と呼んでいるのではないのでしょうか。こう
して見ますと、日本民族とモンゴル民族は、なんだか深いつながりがあ
って、お互いが身近な存在に思えてきますね。

また、何と言っても、日本の国技である大相撲ですね。横綱白鵬、横
綱日馬富士、大関鶴竜、元横綱朝青龍など、モンゴル出身のお相撲さ
んがたくさん活躍しています。平成25年4月25日現在では、横綱か
ら序の口まで、モンゴル出身の力士の数は、合わせて何と28人にもな
ります。私が日本に来た時は、旭鷲山、旭天鵬が活躍していました。
どこの人ですか？と聞かれ、モンゴルから来ましたと答えると、必ずと
いつていいほど日本の大相撲で活躍している力士たちの話になり、会話
が弾みました。

それでは、皆さんは、お相撲以外では、どのようなことが思い浮かび
ますか。

(会場から、ゲル、平原などの声)

このスライドにあるように、馬頭琴や大平原、それに教科書に載って
いる「スーホの白い馬」など、よく知られていると思います。

そのほか、例えば、元寇があります。蒙古襲来とも呼ばれています。
鎌倉時代の1274年と1281年の2回にわたり、当時のモンゴル帝国
のフビライ・ハンが日本に遠征軍を送りましたが、2回とも台風でやら
れて破れてしまいました。

また、「ノモンハン事件」というのを覚えておられる方もたくさんいる
と思います。モンゴルでは、戦場となった河の名前をとって、「ハルハ河戦
争」と呼んでいます。日本では単なる「事件」とされていますが、モンゴ
ルでは「戦争」と認識されています。当時のことを知るお年寄りたちは
日本の「サムライ」と戦ったと語り草にしています。

それから、小学校2年生の国語の教科書に「スーホの白い馬」という話
があります。モンゴルの楽器・馬頭琴がどのように生まれたか書いたお
話です。私はよく小学校に出張講座に行き、今回のようにモンゴルの紹
介をしています。

後は、そうですね、先ほども出たように、広い草原、遊牧民と言った
イメージを持っている人が、多くいらつしやるのではないのでしょうか。
それでは、モンゴルについて、詳しく紹介していきます。

モンゴルの地理

モンゴルは海から遠く離れた内陸の国で、東アジアの北部に位置しています。北はロシア、南は中国という2つの大きな国に挟まれています。国土面積165万4100K²mで、日本の約4倍広いです。緯度は、北海道の稚内市とほぼ同じです。UB(ウランバートル)・成田空港間には年中、週に2回直行便があります。夏の観光シーズンには関西空港からも直行便が出ています。4時間ちよつとかかります。遠いようで、実は近い国なんです。

中央部から東部にかけて草原が多く、南部や西部は砂漠地帯、北部は森林地帯になっています。国土の8%が森林に覆われ、2.5%がゴビと呼ばれる砂漠地帯です。国内の最高峰はフイテン峰で海拔4734m、最低地はフフ湖で海拔560mです。首都ウランバートルは海拔1351mです。

私の主人はモンゴルへ何度か行ったことがありますが、モンゴルは標高が高いので、空がとても近く感じると言っていました。また星空もきれいで、流れ星もよく見られますよ。主人は星が落ちてきそうで怖かった、まさに「星降る夜」と言っていて感動していました。私も日本に何年間住んで、国へ帰って、空がすごく近いことが分かりました。改めて、モンゴルの青空キレイと思いました。モンゴル観光の魅力の中には、広い草原、美しい自然、遊牧民の生活、街の観光スポットだけでなく、満点の星空も入ります。

気候、風景

気候は亜寒帯もしくはステップ気候です。大陸性気候で、年間を通じて乾燥しています。温暖な日本とはまったくの逆で、雨が少なく寒暖の差が大きく、夏の平均気温は+20℃だけど、冬はすごく寒くて、マイナス30℃前後になります。ウランバートルは世界一寒い首都といわれています。モンゴルは雨が少なくて、年間の平均降水量は福井の10分の1(200ミリくらい)です。福井は雨が多いので、日常生活に傘が不可欠ですよ。季節を問わず、毎日、天気予報を気にしています。逆に、モンゴルは傘がそんなに必要ないし、持っていない家庭もたくさんあるし、何しろ傘屋さんはありませんからね。モンゴルの雨は夏中心に降ります。



これはアルタイ山脈にあるフイテン山です(前の頁の写真)。モンゴルの最高標高で、海外からも多くの登山客が訪れます。

高山植物も数多くあります。私はあまり詳しくありません。エーデルワイスという花しか知りません。モンゴル語でも、永遠の花という意味を持つ花です。これはルリタマアザミの群生地の写真です。



このようなきれいな花がたくさん咲いています。

(スライドで美しい写真が次から次へと出てくる)

日本のように山や森に囲まれた場所もあります。これは、ウランバートルの近くにあるテレルジというところです。

これはロシアとの国境近くにある湖で、フブスグル湖です。モンゴルで一番大きい湖です。水が澄んでいて、すごくきれいで、モンゴルのスイスとも言われる場所です。下の写真はヤギ・ヒツジの放牧風景です。遊牧民たちは、夏は、水があるところに集まってきます。



このような風景もみられます。日本の空と比べて青いですか？



下の写真はトーラ川です。ウランバートル市内を流れる大きな川です。モンゴル人にとって水は神聖でとても大切なものなので、モンゴル人は、川に入って水を汚すことはありません。洗濯などもつてのほかです。

このような草原が広がっています。国土の80%が草原です。緑の草に覆われて、草の海のようにも見えます。最初、関西空港から京都へ行く電車に乗った時に、途切れない街並みにびっくりしました。モンゴルにはこのように人が住んでいないところはたくさんあります。

ゴビ砂漠です。



南の方に行くと、砂漠が広がっています。砂漠というと、砂ばかりの土地をイメージするかもしれませんが、このように草がまばらで乾燥した土地のことをいいます。ゴビというのは草がまばらな礫性の土地を意味します。雨は非常に少ないけど、ゴビ砂漠に生える木はたくましく育ちます。

モンゴルにはフタコブラクダがいます。何日も水を飲まなくても大丈夫なので、南のゴビ地方でたくさん飼われています。

モンゴルの冬は、10月から4月まで続き、氷点下40℃まで気温が下がり、雪も降り、とても寒くなります。前にお見せしたフブスグル湖はこのような分厚い氷で覆われます。



モンゴルの人口

モンゴル国は、総面積は156万km²で日本の約4倍ですが、一方、人口は約281万1600人で日本の約50分の1です。首都のウランバートルには128万7100人が住んでいて、全人口の半分近くが首都に集中して住んでいます。

また、遊牧民は全人口の3分の1で、90万人くらいです。日本に来て人が多いことに、また建物が密接に並んで建てられていることにびっくりしました。私は今、永平寺町松岡に住んでいて、後ろが九頭竜川、前と隣が田んぼで、とても開放的で素敵な所です。

モンゴルの人口は1990年に200万人くらいだったけど、20年くらいで80万人も増えて、今では280万人になりました。

この図は、185ヶ国を対象にした2012年の人口密度ランキングです。モンゴルは1㎢当たり1.8人で、世界で人口密度が一番低い国です。日本は1㎢当たり337.6人で、19位です。こうして見ると、けっこう人が少ないことが分かりますね。

これはモンゴルと日本の人口比率の図ですが、モンゴルの場合、65歳以上の人は4%くらいしかありません。若者が多くて、これから楽しみな国です。逆に日本は65歳以上の人は22.7%です。モンゴルはピラミッド型で、日本は逆ピラミッド型です。日本は高齢化、少子化、晩婚化が進んでいて、今は社会問題となっていますね。

モンゴルの平均寿命は68歳で、男性は64歳、女性は73歳です。日本の平均寿命は83歳で、男性は79歳、女性は86歳です。モンゴル人はあまり長生きできません。これはモンゴルの食生活が関係しています。モンゴル人は厳しい冬を乗り越えるために、脂肪、塩分の高い食事をします。高血圧、動脈硬化、脳卒中、糖尿病など生活習慣病に悩まされています。私の父親も50歳の時、脳卒中で亡くなりました。

モンゴル国全図（アイマグ）

モンゴルの行政区域は21のアイマグと首都ウランバートル市で構成されています。アイマグとは日本の県に当たります。ウランバートル市はモンゴルのほぼ中央に位置しています。ウランバートルから南へ中国の北京まで、北へロシアのモスクワまで鉄道があります。もちろん国内の鉄道もありますが、鉱物などの貨物用の車両がほとんどです。また飛行機については、各県の県庁所在地に空港があり、国内便もありますが、運賃が高いため、あまり使われません。

私が生まれ育った所はモンゴルの一歩南の県で、ウムヌゴビ・アイマグと言います。ウランバートルから南へ500kmくらい離れています。移動手段は車です。舗装されていない道で、大体12時間かかります。

ウランバートル

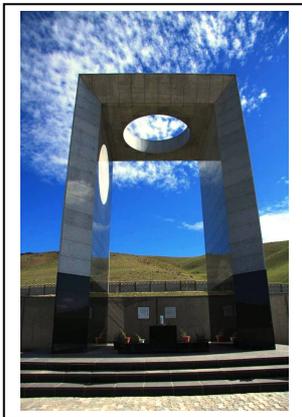
モンゴルの首都はウランバートル市で、経済の中心になります。全人口の3分の1が住んでいて、人口は128万7100人です。人口密度は1㎢当たり244.8人で、人も車も多くて、活気にあふれた街です。

この写真は展望台から写したウランバートルの一部です(次ページ)。人が多く増えたため、建設ラッシュが続いていて、このようにたくさんの高層マンションが立ち並んでいます。郊外には、囲いの中にゲルを建てる、ゲル地区といわれる居住区があります。



下の写真は中央公園、スフバートル広場です。街の中央にあります。観光スポットの一つにもなっています。ロシアの赤の広場、中国の天安門広場にあたります。この広場の周りには政府庁舎、中央郵便局、文化施設、大学などがあります。

次の頁の写真は、第二次大戦後、抑留された日本人が建設に携わった建物の一つで、オペラ劇場です。



ダンバダルジャー墓地公園

ウランバートル郊外にあるこの墓地公園は日本人観光客の必ず訪れる場所の一つになっています。第二次世界大戦後、ソ連は、満洲に残っていた日本人軍約60万人を抑留しましたが、このうち12,000人余りがモンゴル国で昭和20年から22年まで、強制労働に従事させられました。この時期に建てられた建物は頑丈で、きれいな建物ばかりです。

(編集者注、厚生労働省のホームページで、モンゴル抑留中の死亡者約2,000人の名簿を見ることができます)



モンゴルの宗教は仏教、チベット仏教です。チベット仏教にはこの写真にあるようにマニ車というのがある、これを回すことで、お経を読んだと同じ功德があると言われる。



ウランバートル市では、人口増加に伴う大気汚染問題が顕在化しています。特に冬季は、ゲル地区のストーブや、石炭火力発電所における生石炭燃焼により、大気汚染が著しく、市民の健康に深刻な影響を与えています。2月6日の日本経済新聞に掲載された世界の首都の大気汚染ランキングではウランバートル市が279 ugという数値でダントツ1位になりました。それほど深刻な問題となっています。

モンゴルの文化

ここからはモンゴルの文化についてお話しします。

まず最初に遊牧生活。モンゴルは遊牧の国です。現在も就業人口の36%が遊牧民であり、草地を求め五畜を移動させて生活しています。五畜というのは、牛、羊、山羊、馬、ラクダの五つの家畜のことです。高山地域にはヤクという牛の仲間も飼われています。
この写真は家畜の放牧風景です。



家畜の中で、馬は遊牧生活に欠かせない乗り物であり、とても大切な家畜の一つです。財産でもあります。遊牧民と馬との付き合いは密接で、生活の一部というより身体の一部と言った方がいいかもしれません。結婚して所帯を持つたり、出産したお祝いに馬をあげたりするほど、馬は生活に密着した存在となっています。
モンゴルの子供たちは3才から馬に乗っています。ラクダにも乗ります。ヤク、ラクダなどの力持ちの家畜は薪や水を運ぶのに利用します。





民族衣装

モンゴル語で「デール」といいます。男女とも同じ型の伝統的衣装です。日本の着物にあたります。襟を左前で合わせ、右肩のボタンを留め、細くて柔らかい帯を締めます。着物と比べると、着るのがとても簡単です。色彩や柄は鮮やかで独特ですが、晴れの日に着るデールと、日ごろ着るデールがあります。普段着のデールは落ち着いた色合いの生地

を使います。遊牧民とお年寄りがよく着ます。また、馬に乗りやすいように丈が短く作られています。

食文化

赤い食べ物と白い食べ物に分けられます。

赤い食べ物には肉、ハム・ソーセイジなど食肉加工品、白い食べ物には乳、チーズ・ヨーグルトなど乳製品が入ります。

遊牧民は、冬は赤い食べ物を、夏は白い食べ物を中心に食べます。ただし、都会の人は季節に関係なく肉を食べます。

モンゴル人にとって肉のない料理は考えられません。主にヒツジの肉を食べますが、地域によって、山羊やラクダの肉を食べることもあります。ちなみに、私はゴビ地域の人間なので、山羊やラクダの肉を食べていました。主に食べる野菜はジャガイモ、ニンジン、キャベツ、玉ネギ、キュウリ、トマトです。

この写真はモルモン料理(内臓料理)です。血液を味付けして腸に流し入れて、塩ゆでして食べます。

小麦粉もよく食べます。モンゴルは雨が少ないのでお米はできないけど、小麦がとれます。小麦粉料理にはいろいろあります。小麦粉をこねて伸ばして、麺に切つて、「ゴリルタイシル」という肉うどんや、「ツオイワシ」という焼うどんのような料理を作ります。また餃子の皮のように小さく丸めた皮に肉を包んで蒸して「ボーズ」という蒸し餃子も、油で

揚げて「ホーシヨール」という焼き餃子も作ります。ハレの日の料理にはヒツジを丸ごと1頭、塩ゆでにします。

お正月のごちそうは、塩ゆでにしたヒツジ丸ごと1頭と、重ねた揚げパンと、ボーズという蒸し餃子と馬乳酒とウオツカです。

いろいろな乳製品が、30種類もの乳製品があります。地域によって味・種類が様々ですが、柔らかいチーズもあれば、硬いチーズもあるし、甘いのがあれば、すっぱいものもあります。

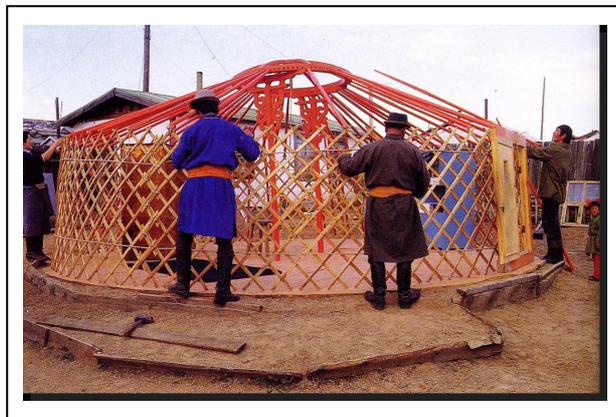
移動式住居「ゲル」

モンゴルの草原で暮らす遊牧民は「ゲル」という白い家に住んでいます。中国語で「パオ」(包)といいますが、モンゴル語では「ゲル」といいます。

この家は日本の皆さんが住んでいるような定住型の家ではなく、季節に合わせて移動でき、簡単に分解・組み立てができるよう工夫されています。ゲルの骨組みは、ヤナギの木で作った壁、屋根、天窓、扉からできています。骨組みの上にヒツジの毛から作ったフェルトと白い布を被せて出来上がりです。大人4,5人で、分解するのに1時間、組み立てるのに2時間ほどかかります。とても便利で、遊牧生活に一番適しています。

テントのように見られてしまうことがありますが、遊牧民にとって生活空間を味わえるしつかりとした家です。室内の空間は壁で仕切るようなことはせず、一つの部屋を共同の場として使うので、そこは家族団

欒の居間でもあり台所でもあり寝室でもあります。
(上は組み立てているところ、下は完成したゲル)

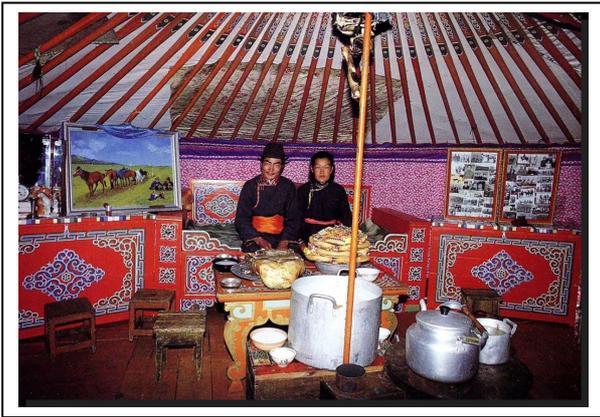
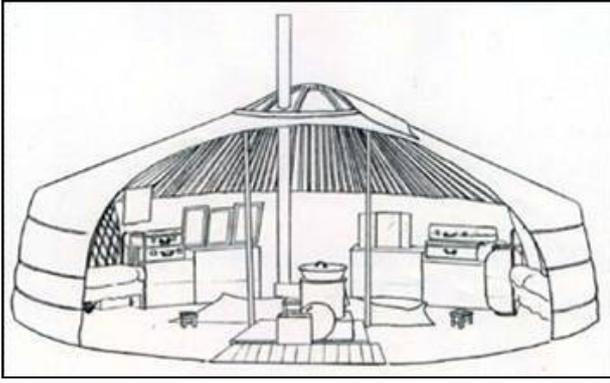


自然と共に生きる遊牧民たちは四季に合わせて住む場所を変え、一定の地域の中で移動しています。大体20 Km以内で引越します。遊牧民の住む草原には所有権というものがなく、土地を購入する感覚はありません。定住することをしない遊牧民たちの生活は日本人たちの感

覚からすると、とても不便で不思議なことのように見受けられますが、季節による移動こそ、家畜から最大の生産力を引き出す、最も効率の良い方法なのです。

夏はフェルトめくって風を通し涼しく過ごします。前ページの写真の一番下の部分をめくって風を入れます。冬はフェルトを何枚も重ねて、床・じゅうたんを敷いて温かく過ごします。

これらはゲルの中の様子を示したものです。



真ん中にストーブを置いて、燃料に家畜の乾いた糞を使って、火を焚いて、家を暖かくするし、また料理も作ります。ゲルに入って、左側は男性の場所で、馬具や乳製品加工道具などが置かれてあります。また来客も左側に座ります。入って右側は女性の場所で、大所用品が置かれていて、台所になります。北側には、お仏壇や鏡台や写真立てなどが置かれてあります。

ソーラーパネルとパラボラアンテナ

モンゴルは年間の250日くらい晴れている国です。遊牧民の家の外に小規模のソーラーパネルが、最近をよく見られるようになりました。携帯電話普及率は105%と言われているモンゴルでは遊牧民も携帯電話を持つようになって、それによって携帯電話の充電やテレビを見たりすることができるようになり、入手できる情報量は格段に増加しました。夜遅くまで電気があるため活動ができるなど利便性が向上しました。携帯電話にとって電気が重要であることは言うまでもありません。また、最近では、遊牧民のゲルの外に、持ち運び可能なパラボラ・アンテナも置かれています。衛星放送でテレビを見られます。日本の大相撲で活躍しているモンゴル力士たちや、韓国ドラマがブームでよく見られています。

これは2010年3月、鯖江市であったゲル組み立て体験会の様子です。みんなでゲルを組み立てました。鯖江の斎藤さんはモンゴルへ旅行

して、ゲルを買ってきたので、毎年、私たちモンゴル人がゲルを建ててあげています。組み立て体験で、高志高校の生徒さんたちも来たり、近隣の小学生たちが見学に来たりして、モンゴル文化を紹介できる貴重なきっかけになっています。また福井新聞や福井テレビやFM福井の取材を受けたこともあるし、NHKの全国放送でも出ました。

大切な家畜たちから命をもらって生きています

日本では、家畜は、自分で育てることがなく、自分で屠ることもなく、店先に並んでいる商品として加工された「肉」を口に使っています。一方、モンゴル遊牧民の場合は、自分で育てて、自分で屠り、肉も内臓もろろん、血も一滴も捨てずに味付けして腸に流し入れて、茹でて食べる習慣があります。大切な家畜から命をもらって生きています。肉、内臓、皮、骨、一つも残さずに食べたり利用したりします。

また、命を大切に、むだなく使うということから、肉、乳は食べたり、飲んだり、毛(カシミア、ウール)はフェルトや衣服にしたり、骨(ヒツジのくるぶしの骨・シヤガイ)で遊んだり、馬、ウシ、ラクダなど大きい家畜は乗り物代わりに使ったり、荷物を運んでもらったり、糞を乾かして燃料に使ったりして無駄なことがないように使うのがモンゴルの遊牧民の精神、知恵です。

モンゴルのナーダム

ナーダムはモンゴル語で「祭り」を意味します。毎年7月11日の革命記念日にちなんで、7月11日～13日の3日間にわたって全国各地で開催されます。青少年に民族の文化を紹介する夏の大イベントになります。競馬・弓射・相撲の競技会になります。

モンゴル相撲は日本の相撲と比べると、土俵もなく時間制限もありません。手のひら以外のどこかの身体が地面につくと負けとなります。土俵がないので、押し出しや寄り切りなどの技はありません。それで勝負がつくまで1時間もかかることもあります。技には、投げる・持ち上げる・引くなど、たくさん技があります。トーナメント方式なので、ナーダムの時は512人の力士が出場し、9回戦で優勝が決まります。日本の相撲力士はたくさん食べて、大きい身体を作って強くなりますが、モンゴル相撲では、それほど太る必要はなく筋肉質の力士が多いです。

競馬は、日本の競馬と違って、競馬場ではなく草原で走ります。馬の年齢に応じて距離別で行われますが、2歳馬は15キロ、3歳馬は20キロ...というように設定されています。次に騎手は大人ではなく、6から12歳の子どもたちが乗ります。女の子でも男の子でもできます。そして、賭博の対象ではありません。

ナーダムでは弓矢も行われます。男の人も、女の人も参加します。

経済の状況

主要産業は、鉱業、牧畜業、流通業、軽工業です。輸出品目は、鉱物資源（石炭、銅精鉱、螢石）、原油、牧畜産品（カシミア、皮革）などで、輸出相手国は、中国、ロシア、カナダ、イタリア、韓国です。輸入品目は、石油燃料、自動車、機械設備類、日用雑貨、医薬品などで、これらは、中国、ロシア、アメリカ、日本、韓国などから輸入しています。

地下資源が豊富なので鉱物産業が盛んで、これらが輸出のトップです。羊や山羊などの牧畜業から得られる製品、カシミアや皮革がこれに続きます。

このスライドは、IMF、世界通貨基金の2012年の187ヶ国を対象とした統計データから引用したものです。実質経済成長率は12.28%で第3位です。経済成長が著しいのが分かります。名目GDPは10.26（単位は、10億USD）で130位、1人当たりの名目GDPは3627USDで110位、年平均のインフレ率は15%で10位、先の経済成長率と合わせて考えると、経済成長は著しいがインフレ率も大きいことが分かります。

それでは、皆さま、モンゴルの経済成長を支えているのは何だと思われるますか。

答えは、豊富な地下資源です。モンゴル経済の飛躍的発展のカギとして政府が期待しているのが地下資源です。この図にあるように、政府は15の鉱山を戦略的鉱床として位置付けています。

モンゴル国内には、レアアースをはじめ未開発の鉱物資源が多く、今後の開発がモンゴル経済の将来のカギを握っています。豊富な金・銅の世界規模の埋蔵量が見込まれるオユ・トルゴイ鉱区、世界最大規模の埋蔵量と言われるタワン・トルゴイ石炭鉱区があります。この二つの鉱山の生産が始まれば、一人あたりのGDPは2倍になると言われています。

この図は分野別の労働人口比率を示したものです。農牧業が33%になっています。農牧業とは遊牧民がなっている仕事です。GDPの産業別構成比では農牧業は12%です。一方、鉱工業に携わっている人は12%ですが、GDPの産業別構成比では34%であり、GDPの中で最も多くを占めています。

この図は賃金・給与を示したものです。1ヶ月の賃金ですが、教員、公務員の給料はとても安くて、日本円で3万円程度です。一方、金融、鉱業にかかわっている人の給料はちよつと高いですね。教員や公務員の2倍以上になっています。

これはモンゴル紙幣です。モンゴルの通貨単位はトゥグルグといいますが1トゥグルグは14円です。1万トゥグルグ紙幣は約7000円になります。紙幣の人物はモンゴル大帝国初代皇帝のチンギス・ハーンです。



2013年4月29、30日の2日間、日本の阿部首相がモンゴル国を訪問しました。日本側としては、目的の一つとして北朝鮮の拉致問題の協力を求めることがありました。一方、モンゴルは、地下資源を日本に売りたいという目的だったそうです。

日本のODAの協力により、無償援助で2009年から3年の月日をかけ、全長895m・幅19.5mの橋を建設してくれました。「大陽の橋」、モンゴル語では「ナルニー・グール」と言います。ウランバートルの人口増加に伴い、車も多く増え、道が細いため朝・晩の通勤ラッシュが大

変な渋滞になっていますが、この橋の完成で、交通マヒが少しでも軽減されます。

モンゴルの音楽・芸能

モンゴルの声楽のひとつにホーミーがあります。日本語では喉歌。声を振動させながら器管や口腔で倍音を共鳴させ、同時に二つ、時には三つの音声を発する技法です。

馬頭琴(モリンホール)はモンゴルを代表する民族楽器です。棹の先端に馬の頭部の彫刻が施されていることから、モリンホール(馬の楽器)といわれています。2007年11月にモンゴル国立馬頭琴交響楽団が来日しました。他にも多数の弦楽器がありますが(モンゴル琴のヤタガ、横笛のリンベなど)、ヤタガは日本の琴のルーツと言われています。

福井・モンゴル友の会の設立3周年を記念して2009年10月2日、響のホールで「モンゴル民族音楽の夕べ」が開催されました。2013年3月15日には設立5周年記念として、県立音楽堂で「モンゴル民族音楽の夕べ」が開催されました。いずれもモンゴル国内の一流の演奏者を招いての音楽の夕べでした。福井県民にとって、モンゴル民族音楽を聞く機会はあまりないので、とても楽しんでもらえたと思います。両方とも、たくさんのお客さんが来られました。(ビデオでモンゴル音楽を鑑賞した)

福井とモンゴルのつながり

福井とモンゴルとは教育や研究でいろんなつながりがあります。県立恐竜博物館を訪れた方は多いかと思いますが、あそこに展示されている恐竜のレプリカの中にはモンゴルで発掘された恐竜もたくさんあります。恐竜化石の発掘調査や研究では福井県とモンゴルは強いつながりがあります。また、福井県立大学とモンゴル農業大学は学術交流を行っていて、教育・研究に関する資料の提供や共同研究を実施しています。

若狭町とセレンゲ県との友好親善交流は2006年にセレンゲ県の農業視察団を受け入れたのをきっかけに始まり、若狭町の住民がセレンゲ県を訪問したり、セレンゲ県からも行政関係者が若狭町を訪問したり、交流を続けています。

福井県内に住むモンゴル人と日本人20名くらいの会員からできた福井・モンゴル友の会があります。活動として、モンゴル文化紹介、「モンゴル通信」新聞を読む会、民族音楽コンサートの開催、留学生支援などをやっています。

もう一つは、JICAモンゴル支部や国立師範大学の先生を通して、「モンゴル子ども達に絵本を贈る運動」をしています。大体、1年に2回程度絵本を送っています。日本の大相撲にたくさんモンゴル出身の力士たちが活躍しているので、その影響で、モンゴルでは日本語がブームです。大学だけでなく、学校や幼稚園でも日本語を学んでいる子どもたちはたくさんいます。日本の絵本は道徳的な話ばかりなので、心の教

育に役立つてもらえるために送っています。また文房具、縄跳び、レコーダーなども送っています。絵本のお札に子どもたちの描いた絵や手紙が我々に届きます。子どもたちの絵はとても上手で、豊かな色合いをしています。

福井には福井大学、福井工業大学、福井高等専門学校、福井高等学校にモンゴル人留学生が6名ほどと、日本人と結婚したモンゴル人が3名ほど住んでいます。

モンゴルの文字

モンゴル文字(蒙古文字)は13世紀にウイグル文字から派生しました。母音と子音の組み合わせによる表音文字で、なおかつ、語頭形・語中形・語末形で変化します。左から右へ、縦にしか書けません。一般教育では、週1時間のモンゴル文字教育が設置されているが、一般社会ではモンゴル文字は無関心の人が多いです。

モンゴルの国家文字はキリル文字です。モンゴルは旧ソ連に続き社会主義国になりました。ソ連の影響で、モンゴル文字を使うのを廃止して、1941年からキリル文字を使用することになり、今も国家文字はキリル文字です。

これで私が準備してきたお話はすべてです。どうもありがとうございました。(拍手)

早川 ありがとうございます。なんだか別の世界に連れて行かれたような気がしました。たくさんの方とても素敵な写真を魅入られたようにして見ていました。それではここでしばらく休憩します。

休憩中

会場の後ろの設けられていたコーナーでは、民族衣装を着けたお母様もおられ、2人で新年の挨拶の仕方を見せてもらった。モンゴルのお菓子もいただきました。

(下の写真は骨で作ったおもちや、おはしきや占いに使う。)



講演後の質疑応答

モンゴル語

参加者A たいへん面白い話して嬉しかったです。特に、モンゴル相撲では押し出しがないというのとても面白くて。日本の土俵のようなものはないと思うのです、大平原では押し出しなんて意味ないですね。いろいろお聞きしたいのですが、内モンゴル、外モンゴルといいますが、簡単にいいので説明してもらえますか。

和田 昔は一緒だったのですが、いまは内モンゴルは中国の自治区になっています。中国領になっています。モンゴル国の南に位置します。モンゴル人は20%くらい住んでいます。

参加者A あまり交流はないのですか、内モンゴルと。

和田 あります。内モンゴルの中心都市フフホト市にはモンゴルからの留学生もいて中国語など学んでいます。

参加者B 楽しいお話、ありがとうございます。いつも家族と話をしているのですが、日本に来ておられるモンゴルのお相撲さんですね、日本語がとても上手です。僕たち日本人が忘れたような暖かい言葉がぼんぼんと出てくる。なぜかなと思っていたのですが、ここでお話を聞いて書く字と話す言葉と関係があるとか……

和田 日本語の場合は、あいうえおの母音が、たとえば「かきくけこ」とか、「さしすせそ」とか、KA、KI、あるいはSA、SIと後ろに母音

が来ているので、優しい音が出るのかなと思います。縦に書くモンゴルの字も語も、子音が続くことはなく、母音が後に来るので発音的にはとても似ています。英語では、「私は、行く、どこどこへ」という語順ですが、モンゴル語は日本語と同じで「わたしは、どこどこへ、行く」という文章構造になっています。それでとても覚えやすい。話すのが楽です。日本語は、漢字、カタカナ、ひらがなと、とても難しい言葉ですけど、発音はモンゴル人の発音にあっていると思います。だから、モンゴルのお相撲さんの発音がきれいなのかなと思います。幼稚園や小学校で日本語を教えたりしています。大学でもたくさんに日本語を教えています。

蒙古斑点

参加者C 今ここに来ている友人と私とは、1997年にモンゴルに行きました。そのとき、こういう、とんでもないことをしたので、許されることだったのか、反省を込めてお聞きしたいのですが。さっき、蒙古斑のお話がありました。ガイドが連れて行ってくれたところに小さい赤ちやんがいたのです。わたしが、その子のお母さんに、「蒙古斑があるかどうか見せてください」とお願いをしました。するとお母さんは見せてくれました。そこまでは良かったのですが、「写真を撮ってもいいですか」と聞くと断られました。蒙古斑を見せてくださいと言ったのは許されることだったのか、また写真を撮らせてくださいといったのはどうだったのか。

和田 えっ(笑)。どうなんでしょうね。モンゴル人はとても気さくな人たちです。とても親しみやすい人たちです。見せてくださいというのは全然失礼なことではありませんが、私も写真を撮らせてくださいといわれたら、ちよつと考えるかな(笑)。

遊牧民の生活

参加者D 遊牧民の方が使っておられる土地は個人のもではなくて国のものなのですか。

和田 遊牧民は土地を所有していません。

参加者D 1年間に4回移動されるということでしたが、どういう風な同意があるのですか。

和田 たとえば、モンゴル全体の行政区域は21県に分かれています。そのなかのひとつの県は16区分くらいに分かれています。遊牧民は冬に住む場所があつて、そこに定住しているのですが、夏の季節には20キロほど離れたところ、そっちに行くとか、春はこっちに行くとか。私のばあちゃんは一ひとり暮らしの遊牧民だったので、移動しない遊牧民だったので、50メートルほど離れたところに夏のゲルがあつた。若い人たちは、春にはこっちとか、夏にはこっちとか、秋にはあつちとか、10キロや20キロを移動します。決められた距離があり、もちろんよそのところに行ったら、怒られるわけではない顔はされない。

モンゴルの南の方は砂漠化が進んでいて、遊牧生活をして行くには、ち

よつと大変になっている。若い力のある人は思い切って北の方に移動しているけれど、きつと最初は大変だと思えますが、土地を誰かが所有しているわけではないので、誰が来てもそこに溶け込んで仲良く暮らせると思います。

早川 遊牧民のお墓はどうなっているのですか。

和田 モンゴルのお墓は、箱に入れて土を掘って葬ります。

早川 遊牧民の方は移動するので、どこにお墓があるのですか。冬の住居の近くにあるのですか。

和田 お墓は決められたところにあります。余り離れた範囲で移動しないので、自分の住んでいる近くにあります。

参加者D 先ほどのお話で、川はとても神聖なところといわれましたが、それはどうしてなのですか。

和田 モンゴルは先ほど説明しましたように雨がとても少ないのです。福井の100分の1程度です。それで川の水はとても貴重で遊牧民の飲み水になっています。川で野菜やあるいは身体など洗ったりしてはいけません。モンゴルは砂漠化が進んでいるので、水はとても大切なのです。

子供の教育

参加者E 遊牧民の子供たちはどうやって勉強しているのですか。移動していると学校に行くのも難しいと思うのだけれど。

和田 いま、モンゴルの識字率は100%です。6歳になったらみんな学

校に行きます。遊牧民の子供も。親と離れて寮に入るので。夏休みが6月から8月いっぱいまであるので、3ヶ月もありますから、その間は親のところに帰ります。家の手伝いは当たり前で、何でもします。日本のようにうどんやそばが茹でるだけになって売っているのでないで、粉から作っていかなければなりません。水と練って延ばして切って全部医はじめからします。肉もきれいに切ってタッパに入れて売っているので、ぜひ自分たちでさばいて食べます。

参加者D モンゴル帝国はとても巨大な帝国でいろんな遺跡や建造物があると思うのですが、その当時のものは残っていますか。

和田 あまり残っていません。首都のウランバートルから西へおよそ380キロいったところにかつてのモンゴル帝国の首都カラコルムがあり、そこはいまオルホン遺跡といわれていますが、ここには60以上の寺院があり、10,000人もものラマ僧がいたといわれています。しかし、共産主義時代の宗教弾圧で破壊されて、いまはわずかに3つの寺院を残すだけになっています。

ゲルと生活

参加者F 今日ここに寄せてもらってよかったです。ありがとうございます。日本語がとてもお上手で、お国のことをよく知っておられ、わたしたしなんかは今日のようにみんなの前で日本のことをうまく説明できないと思います。質問ですが、ゲルに住んでおられる人たちは

結婚したらどうやって住むのですか。ずっと一緒に住み続けるのですか。

和田 ゲルは簡単に建てられるし、高くないので、すぐ隣に新しいゲルを建ててそこに住みます。日本の場合は、長男が家を継ぎますが、モンゴルの場合は、上の子から結婚して、家を出て行って、最後に残った末っ子が家を継ぎます。

参加者G 遊牧民は野菜はどんなのを食べていますか。

和田 ジャガイモ、玉ネギ、キヌーリ、トマトなどです。あまり食べないです。遊牧民は肉を食べていますが、動物は草原の草などを食べているので、肉だけで栄養は充分足りています。動物はすべてをいただきます。残ったのは乾燥させて保存しています。

参加者D 移動して生活している遊牧民の方には郵便物はどうやって届けられるのですか。

和田 ウランバートルはもちろん、その下の郡も県も住所がありますから、そこには届きます。遊牧民に届ける場合は、移動中の近くに行く人があればその人に頼んで届けられます。

参加者G 先ほどはいろいろ写真を見せてもらい、モンゴルの平原の広いに感動したのですが、あの広いところで方向をどうやって知るのですか。僕なんかはよそに行くとき山や太陽の位置で方向を知るようにしているのですが。

和田 ゲルの扉は南向きになるように建てられますので、何も無い広い草原ではゲルの扉で方向を分かることができます。

早川 見せてもらった写真の中に冬地面に雪があるところをラクダが水を運んでいるのがありますが、ラクダというところでも暑いところの動物のイメージがあるのですが、ラクダは冬にも強いのですか。

和田 ゴビの砂漠はモンゴルの南の方で南にラクダはいます。北の方にはいません。ラクダも冬の寒さに慣れているのだと思います。モンゴルは、インド、パキスタンについてラクダが多い国です。それとモンゴルのラクダはフタコブラクダです。

都市と田舎

参加者H モンゴルは経済発展がすばらしく、実質経済成長率は世界で第3位というお話がありました。が、都市部と田舎の経済格差はどうようになっていますか。

和田 現在のモンゴルでは急速な経済発展がみられます。社会主義国家から民主主義国家となった1992年に行われた市場経済移行から20年が経過し、牧畜を中心とした産業構造から工業やIT産業といった二次産業、三次産業への移行がみられ、特に首都ウランバートルではその動向が顕著です。

市場経済移行後、多くの人々が仕事を求めて地方から都市部に移動したために、特に首都ウランバートルでは全人口(281万人)の半数以上にあたる130万人もの人口が集中していて、急激な物価高騰や住宅不足、スラム化など様々な問題が起っています。また、地方から

都市部への人口流入によって地方の農村において労働力不足が問題視されるようになっていきます。地方の多くはまだまだ半遊牧的な生活であり、労働集約的な牧畜によってモンゴルの食肉生産を担っているために、人口流出による地方の農業生産力の減少はモンゴル国内の食料不足という問題に繋がっているとされています。

アトピー

参加者Ⅰ 日本にはアトピーの子供がいて学校給食などではその子のために特別な献立をしなければならぬようなことがあるのですが、モンゴルにはアトピーの子供はいないのですか。

和田 アトピーの子供はいませんが、ただし、うちの子供はかゆいといいます。モンゴルにはアトピーはありませんが、ウランバートルは大気汚染がひどいので、のどを痛める子供はいます。

早川 スライドでモンゴルの本当にすばらしい風景をたくさん見せてもらいました。日本と比べてまったく違う風景です。モンゴルが懐かしいことありませんか。

和田 最初はそうでした。14年も日本にいたのでなれました。ただ、パソコンでこのころはテレビ電話のようなことができるので、向こうの風景を見ながらハンしていると帰りたくなることがあります。でも、それもなれました。

早川 まだまだお聞きしたいことがあります。今日はこれから福井まで帰っていたかなければなりません。残念ですが時間になりましたので、これで終了したいと思います。皆さま、拍手でお礼申し上げます。と思います(大きな拍手)。本日はありがとうございました(拍手)。

資料

一・参加者(17名)

伊吹すみ子、杉左近孝夫、杉左近弥生、坪内彰、坪川博之、中野英二、橋田国夫、早川智子、早川博信、早川眞理子、福本人司、森本小夜美、山口孝志、山中孝子、吉岡洋一、渡辺淳、渡辺孝男

二・発言者(9名)

A(70代、男性)、B(60代、男性)、C(60代、男性)、
D(60代、男性)、E(70代、男性)、F(50代、女性)、
G(70代、女性)、H(70代女性)、I(60代、男性)、